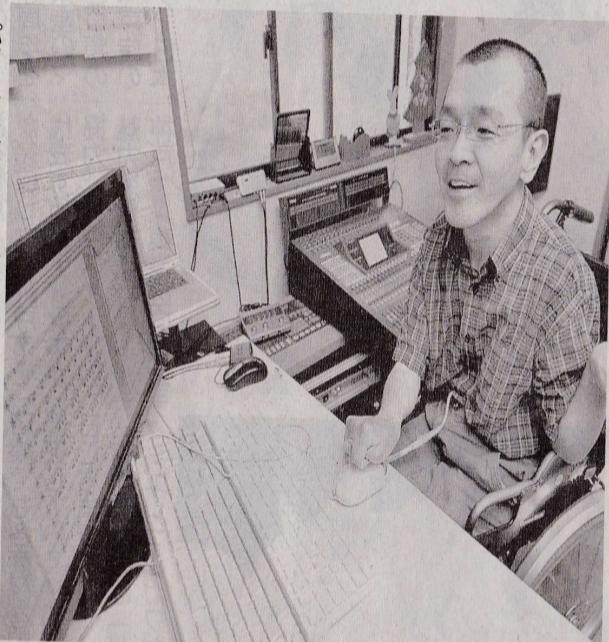


脳性まひのバンドマン 浦野さん



パソコンを使って作曲をする浦野健さん＝高槻市の自宅で

高槻で11月4日「最高の演奏を」

【加藤佑輔】

重度脳性まひの障害を抱えながら音楽活動を続けるバンドマン、浦野健さん(42)＝高槻市＝を中心とした「URANO BAND」の20周年記念ライブが11月4日に同市高槻町の「URANGE TAKATSUKI」で開かれる。浦野さんは「この20年で最高の演奏を届けたい」と意気込んでいる。

【加藤佑輔】

浦野さんが音楽にのめり込んだのは、中学生の頃だった。文化祭の準備で他の生徒たちが看板作りなどに励む中、手足が不自由で力になれないことに悔しさを感じた。「役に立たない手なんかいるない」と、包丁で自分の手を切断しようと考えた。高ぶった気持ちを静めたのは、テレビで流れる長渕剛さんの「乾杯」などの人生応援歌だった。

「長渕さんのような音楽を作りたい」。浦野さんはそんな思いを募らせて高校卒業後、大阪市内の音楽専門学校に入学。パソコンに内蔵されたソフトで音を生み出すデスクトップミュージック(DTM)の技術を学んだ。23歳の秋にバンドを結成。

DTMで曲の原形を作り、バンドメンバー全員で編曲をしていくスタイルで楽曲を制作している。

活動20年記念ライブ

MAINICHI

新聞毎日

9月29日(金)

2017年(平成29年)

発行所: 大阪市北区梅田3丁目4番5号

〒530-8251 電話(06)6345-1551

毎日新聞大阪本社

